

CONTENTS

01 企業理念

イントロダクション

02 イノアックの歩み

03 製品紹介

04 社長メッセージ

特集

08 白馬での地域密着事業

11 グローバル展開を目指した取り組み

環境

13 環境

社会

20 価値向上のために

24 価値向上を実践するひとづくり

27 サプライチェーンマネジメント

28 社会とのコミュニケーション

ガバナンス

29 ガバナンス

データ集

31 ESGデータ集

35 会社概要

編集方針

◎報告期間

本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2023年度(2023年1月1日～12月31日)の活動実績をもとに作成しています

※2022年度とそれ以前、2024年度の内容も一部含む

◎対象範囲

株式会社イノアックコーポレーション単体の活動を中心に、一部国内外イノアックグループ会社を含む

◎参考としたガイドライン

GRIスタンダード

発行年月:2024年11月



企業理念

一本の大きな木を育てるより、
多くの個性ある木を育て、
美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、
ひとつの事業に特化することなく、
ウレタン・ゴム・プラスチック・複合材という4つの苗をもとに、
多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、
サービスを作り出し、社会へ貢献してまいりました。
イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、
時代のニーズにお応えしていきます。

お問い合わせ先

株式会社 **イノアック コーポレーション**

経営企画本部 広報部

〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号 大崎ウエストシティビル4階
TEL: 03-6680-8168 E-mail: csr@inoac.co.jp <https://www.inoac.co.jp/>



イノアックの歩み

快適な暮らしと持続可能な社会のために 発泡技術のリーディングカンパニーとして成長

1926年の創業以来、日本初のウレタンフォームの生産をはじめ、人々の暮らしを豊かにする多彩な製品、サービスを創り出してまいりました。イノアックの成長は、開発の歴史でもあります。新しい用途への応用を数多く生み出すとともに、特に近年では環境への配慮を重視した開発を常に心がけて、人と地球の未来のために挑戦を続けています。

事業発展の歴史

Business Development History



- 「井上護膜工業株式会社」の前身である「井上護膜製造所」を名古屋市熱田区に設立(1926年)
- IRCブランドのタイヤ・チューブの輸出を開始

- ドイツよりウレタンフォームの技術を導入(1954年)
- 「エム・テー・ピー化成株式会社」を設立
- 自動車部品事業へ進出
- 寝装品・育児用品分野へ進出
- スリランカに海外初の合弁会社、「ASSOCIATED RUBBER INDUSTRIES LTD.」を設立

●配管材分野へ進出



●生活用品分野へ進出



●家具分野へ進出

●物流資材分野へ進出

●粧材分野へ本格的に進出

●東南アジアへの進出を本格化

- 「井上エムテーピー株式会社」を設立(1980年)
- 建材分野へ進出
- OA分野へ進出



●包装材料分野へ進出

●アメリカへの進出を本格化



●「株式会社イノアックコーポレーション」へ社名変更(1990年)

- 福祉・介護用品分野へ進出
- 中国への進出を本格化



●環境事業分野へ進出

●東南アジア拠点の強化および拡張

●一般社団法人「ポリウレタン国際技術振興財団」を設立



●ウレタンフォーム生産開始60周年を記念して、「ポリウレタン国際フォーラム2015」を開催



●グループ初の沖縄の会社として「株式会社イノアック琉球」を設立



●愛知県名古屋市に神野R&Dセンターを設立



●名古屋本社を増築し新社屋を設立



●全国の事業所内を中心に寝具等の直営ショップをオープン

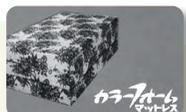


●2023年に第5回ポリウレタン国際フォーラムの開催



製品開発の歴史

Product Development History



- ▶日本で初めてウレタンフォームを生産開始
- ▶カラーフォームマットレスの販売開始



- ▶タンカー・新幹線車両の現場施工での断熱工事を実施



- ▶INJ-BLOW工法と加飾技術による化粧品容器の開発



- ▶インモールドコート(二層)一体成形インパネを開発



- ▶道路建設現場での発泡ウレタンR-PUR工法を開発



- ▶環境に優しい連続気泡微細セルポリオレフィンフォーム「MAPS」生産



- ▶超臨界発泡法を使用したクリーンな長尺ポリオレフィンフォーム「FOLEC」の生産



- ▶環境に優しい超微細セル無黄変薄物長尺シート「PureCell」の生産



- ▶植物由来のポリウレタンフォーム「ECOLOCEL」を開発



- ▶高性能複合断熱材の「フレキシブルエアロゲル」を開発

製品紹介

今もこれからも、豊かな暮らしのすぐそばに

家庭内での生活用品や介護用品、日常的に使うIT機器から工場などの産業機械に。住宅・建築の資材や土木の現場にも。自動車などの乗り物やインフラの設備にまで。イノアックの素材は姿を変えて、街のあらゆる場面に溶け込み、さまざまなフィールドで人々の快適な生活を支えています。



社長メッセージ



「素材で暮らしを豊かにする」という 強い意志をもって、 チャレンジを続けていきます

株式会社イノアックコーポレーション
代表取締役社長

野村 泰

PROFILE

- | | | | |
|----------|-------------------------------|---------|-------------------------|
| 1985年 3月 | 井上エムテープ
(現イノアックコーポレーション)入社 | 2011年5月 | 自動車関連事業部統括(タイ駐在) |
| 1991年 2月 | 北米駐在 | 2015年2月 | 専務執行役員
自動車関連事業本部 本部長 |
| 2004年 2月 | 自動車関連事業部 技術部長 | 2018年4月 | 取締役 |
| 2007年10月 | 自動車関連事業部 品質保証本部長 | 2019年4月 | 常務取締役 |
| 2008年10月 | 東北イノアック 代表取締役社長 | 2022年4月 | 代表取締役社長(現職) |

社長メッセージ



社会背景の変革に先じた対応を

近年の新型コロナウイルス感染症、地政学的な問題は、社会・経済を大きく変えることになりました。こういったバリューチェーンの変動は、当社の事業の在り方についても大きな影響を及ぼしています。さらに、気候変動や生物多様性、人権等の問題に対する社会的な関心の高まりについても、事業戦略を考えるうえで、より真剣に検討してリスク対応を果たしていかなければなりません。

また、企業の不正や既存のサプライチェーンなど、社会全般の制度疲労とも考えられる事案もあり、当社としても必要な変革を推進し、今後の社会の在り方に貢献していくことが重要だと考えています。

こういった大きな変革期を迎えた現在において、躊躇なくあらゆる物事に挑戦していく気概が必要だと思っています。

「買う」「つくる」「売る」の進化

製造業の基本は、「買う」「つくる」「売る」という3つの機能をいかにバランス良く発揮するかという部分に変化はありませんが、それぞれにおいて検討すべき要因は複雑化しており網羅的なリスク対応が求められます。その先に「付加価値」を創造し、取引先や社会に提供することが重要です。

「つくる」については、現場のデータを客観的にリアル

タイムに把握し、業務に活かす必要があります。ファクトリーオートメーションやAIといった、いわゆるDXの適切な導入を図り、オペレーションの改善に取り組んでいます。マザー工場の一つでもある桜井工場ではすでに、あらゆる設備の稼働状況をモニタリングし、不良率や生産個数など、生産状況に係るリアルタイム情報の発信・蓄積、なんらかの異常の発生、もしくはその兆候に対するアラート、確度の高い原因究明につながる支援機能など、生産性や品質の向上に資するシステムを導入しており、資源効率、エネルギー効率の向上を含め、コスト削減を実現しています。今後はこれらのシステムを各拠点向けに調整しながら導入を進めていきます。

「買う」に関しては、資源採取からのサプライチェーン全般を事業内容や地理的要因も踏まえてグローバルな調達機能の構築を進めています。原材料、エネルギー価格の高騰や物流課題を包括的に検討し、原材料に近づく川上に位置する事業領域への展開も含めて、「つくる」における原価率低減にもつなげていけるようにしなければなりません。

「売る」については、取引先との関係性をより強固にしていくことも重要になります。各種製品のマーケットの状況は社会動向などによっても左右されてしまいます。自動車産業におけるEVをめぐる直近の動きなど、いち早く兆しをつかみ、取引先とも共有してさまざまな提案

社長メッセージ

を行っていくことも必要になっていくと考えています。

また、寝具・家具事業などBtoC領域においては、それぞれの地域ごとの文化や慣習などの生活様式も踏まえ、市場の変化をしっかりとらえて商品を提供することも必要となります。

グローバル展開の進展

イノアックグループはアジアを中心に十数か国で事業を行っています。また、サプライヤーや取引先、最終製品のマーケットを考えると、グローバルな視点で事業戦略を考えていかなければなりません。

イノアックコーポレーションのパーパスは「素材で暮らしを豊かにする」です。このパーパスを実現するためには、法規制や生活環境、社会課題といったことも含めて、各国・地域の人々の暮らしを考慮することが重要です。これまで



社内表彰2023発表会の様子

のような汎用品の提供にとどまるビジネスモデルではなく、地域ごとの課題を直接的に解決に導く商品提供ができるよう、研究開発拠点を日本、中国、北米、タイに設置し、市場や取引先と密にコミュニケーションを図っています。

また、今後の発展に向けて、事業組織の再編にも着手しています。顧客との関連性から、自動車、産業資材といった事業軸でスピードを生かした事業運営が行えるようにし、寝具・家具などのリビング事業や断熱材などの建材事業については戦略事業と位置づけ、よりマーケットインの事業展開を図ります。事業内容のフローについても、ウレタン・ゴム・プラスチックを中心とした素材事業とそれに付加価値・市場価値を乗せる加工事業の2つの段階について明確化した運営ができる組織改革も進めています。

さらに、グローバル全体のマネジメントを最適化できるよう、本社の各機能の充実にも取り組んでいます。

これらグローバル展開を進めるうえで、人材というのも重要になります。給与体系の見直しや社内表彰制度の拡大や人材の育成にもより積極的に取り組み、新たな意欲ある人たちの採用も進めていきます。

社内表彰制度は、コロナの終息もあり、関係者が一堂に会したイベントとして実施しました。各国・各拠点でのさまざまな取り組みを称え、交流を深めることはグローバル展開を目指すイノアックグループにとって大変意義深いものとなったと感じています。従業員一人ひとりが、自分



で考え、行動に起こして結果を出している多くの事例が共有されました。このような取り組みを今後もグローバルで共有し、どんどんとスケールアップしていくように、働く社員の環境も整えていきたいと考えています。

サステナビリティが中核となる世界

気候変動や生態系保全、化学物質管理、サーキュラーエコノミーといった環境課題は、机上での議論から実際のビジネスの現場での対応が強く要請され、適切な環境認識なくしてビジネスは回らない時代となっています。

素材を中心とした当社においては、ウレタン・ゴム・プラスチックに関するサーキュラーエコノミーを実現していく

社長メッセージ

ことも重要な使命だと考えています。再利用を前提としたマテリアルリサイクル、原料へ戻すケミカルリサイクル等、これまで培ってきた技術を用いてサーキュラーエコノミーの実現を目指します。ケミカルリサイクルについては、基本的な技術の開発、導入を迎えており、社会実装に向けた検証を進めていきます。

気候変動課題については、カーボンニュートラル委員会が中心となり、グローバル範囲での取り組みを進めています。より具体的な進捗管理や施策の検討を進めるよう、エネルギー、原料、物流、事業部の4部会を設置、自社でのマネジメントをより深化させてスコープ1・2の排出削減を進めています。スコープ3についても、サプライチェーンマネジメント等の進捗を踏まえ、社会的にもより明確化されてきたことから、情報把握、施策要請・サポート等を含めて、積極的な管理を進めていきます。

気候変動とも関連してより注目されるようになっている人権に関しても、トップステートメントを踏まえ、イノアックグループ内における人権側面の検証やサプライヤーにおける状況把握など、人権デューデリジェンスとしてのマネジメントを進めています。

サステナビリティは、当社だけの問題ではありません。真に持続可能な社会を実現するためには、さまざまなステークホルダーと協力し、社会そのものを変えていく必要性もあります。白馬村での取り組みは、当初の段階

から一歩進めて、より包括的・具体的な段階に移行しました。行政、諸団体組織、教育機関などとさまざまな協議、取り組みを進め、地方活性化に寄与できる変革を後押しできるよう、コミュニティ拠点の設置にも着手しました。「技術力、遊び、自然、経済」の観点で、在住者・来訪者にかかわらず、白馬村との関わりを模索して、協業できるモデルづくりを進めます。少子高齢化だけにとどまらず、カーボンニュートラル、生態系保全、サーキュラーエコノミー、シェアリングエコノミー、ダイバーシティ、都市化など、世界中のコミュニティ課題解決に寄与できるものと考えています。

百年単位を見据えた企業の在り方を考える

当社の前身である井上護謨製造所は1926年に設立され、間もなく100年になろうとしています。これからの100年を考えるにあたっては、一人ひとりの暮らしはもちろん、全てのステークホルダーにとっての価値を向上させていくことが重要だと思っています。そのためには、事業運営にあたっては、組織一丸となって理念に向けて取り組んでいくことが必要です。

「市場を知る、敵を知る、自分を知る」ことが、企業としても重要です。市場を知るというのは社会全体を理解しグローバルな動向を把握することになりますし、敵(競合)を知る

というのは、関係者とのパートナーシップを構築することにもなります。社内・社外との関係性をしっかりと保っていくためには自分自身のことを理解するように努めることも大切です。

「素材で暮らしを豊かにする」という覚悟をもち、常に前向きに明るくチャレンジし続けていく企業でありたいと思っております。これは、イノアックの社名の由来でもある、イノベーション&アクションにも共通する私たちの根本でもあります。社会のイノベーションを実現するために、日々の改善活動を継続しイノベーションにつなげていくといったサイクルをしっかりと進め「世界の、未来の、イノアック」であり続けていきます。

